

『東日本大震災』対策本部ニュース



2011年3月31日(木) 19時00分



No.26

義援金到達 1,834,548 円

<現地支援レポート>

『胸が締め付けられるような気持ちに…』

いずみ診療所 高橋 透

第4次の支援として3月26日から29日に宮城県塩釜市の坂総合病院へ行つきました。被災地は町全体が泥を被ったような状態で、かなり埃っぽかったです。海沿いでは船が陸に乗り上げていたり、道路の脇では車がひっくり返っていたり、電柱にぶつかったままの状態で乗り捨てられたりしていました。2週間以上たってもひどい状態です。

坂総合病院には、全国の仲間から支援があり、毎日何十人も来たり帰つていつたりで入れ替わっています。その為、毎朝誰が何の支援に入るか壁に張り出されます。私はまず炊き出し係とされ、支援者のための炊き出し、休憩室でサンドイッチを作ることや皿洗いなどをしました。



第4次支援隊のメンバー

次の日は避難所回りのチームに配属され、小学校や中学校の体育館などの避難所に行く事になりました。ペット同伴用の避難所もあり、いろいろな配慮が必要だと感じます。避難所で具合の悪い方や薬が切れた方がいないか声をかけて回りましたが、皆さん避難所での生活が2週間以上、となりのプライバシーも守られずかなりの疲労感だと思います。

私のチームではずっと体を洗う事が出来ない人や爪を切っていない人が気になるという事で、坂総合病院でボリタンクにお湯を入れて持つてき避難所で足浴や体を拭いたり爪を切ったりのケアをする事にしました。泣いて喜ぶお年寄りなどもいて、こちらも胸が締め付けられるような気持ちでした。またチームによっては、「昼間自宅で瓦礫の処理などをして夕方に避難所へ戻つてくる人を診るようにしよう」と、夜遅くまで避難所で頑張っているチームもかなりありました。

普通の生活に戻るには大変長い道のりが必要だと思います。これからも支援の手を休めず、続けて行かなければと思います。

「まるとも水産」のお孫さんよりメールをもらいました。

地震の日、一家は高台にある自宅にて幸い全員無事で、健康面も問題ないそうです。真っ黒な大きな津波を高台の自宅から見ていました。唐巣町は電気とガスがまだ復旧していないそうです。かながわの人たちが心配していることを、親戚づてに伝えてくれて、喜んでいたとのことでした。（長谷川）



いずみ診療所の待合室に掲示されている「震災ニュース」

